

報道各位

Well-being society の実現に向けた データ利活用による健康経営の実践

－ 従業員の健康関連データ利活用の実践及び実態調査を踏まえた データ利活用の基本ユースケース（案） －

健康長寿産業連合会 健康関連データの活用推進ワーキンググループ（以下、WG2）は、この度、『Well-being society の実現に向けたデータ利活用による健康経営の実践』を行いその成果を取り纏めましたのでご報告します。

健康関連データ利活用におけるポイント

- 健康関連データの利活用にあたっては、人材・ノウハウの不足が大きな課題となっていることから、**外部資源の活用**が必要とされており、データを有効活用することで専門職の保健指導の質の向上に加え、業務の効率化も期待されます。
- 健康関連データを取得する際に、個人情報に対する意識の高さが障壁となっていることから、**個人情報の取扱規定の策定、周知、同意取得の方法について支援が必要**です。
- 健康関連データを利活用した健康経営の実践を推進する上では、**「健康情報」に関することのみではなく「デジタル技術」リテラシー向上の支援が必要**です。
- 健康経営推進度の高い企業では、取組のPDCAの実施や、保健指導の高度化を目的として複数種類のデータを活用している傾向がみられますが、リスクやコストが増大することから費用対効果の提示に課題感があります。他方、健康経営推進度の低い企業群では、保健指導の高度化を目的に健診データを活用したい意向がみられますが、人材・ノウハウの不足が大きな課題となっています。健康関連データ利活用を推進するにあたっては、**健康経営推進度別に関心（ニーズ）や課題が異なるため、各段階に応じたアプローチが効果的**です。

健康関連データ利活用の発展に向けた支援の方向性

健康関連データ利活用の推進に向けた支援

- 外部資源（保険者、専門スタッフ、健康経営推進サービス）の活用
- 個人情報の取扱規定策定、周知、同意取得に関する個別支援、ユースケース例示
- 「デジタル技術」リテラシー向上

	健康経営推進度（低）	健康経営推進度（高）
関心	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断結果データの活用 健康指導の高度化 	<ul style="list-style-type: none"> 取組の評価および質の向上 健康指導の高度化
課題	人材（ノウハウ）・部署の資源不足 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 推進体制が構築されていない ✓ 経営層・管理職の関与が少ない ✓ 産業医や専門スタッフが不在 	費用対効果の提示 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 複数種類のデータの統合／分析にかかるリスク、コストの増大 ✓ 上記による部署間連携や費用対効果の提示



詳細は、健康長寿産業連合会ホームページをご確認ください。

<問い合わせ先>

健康長寿産業連合会 健康関連データの活用推進ワーキンググループ（WG2）事務局

Email: kenkochoju-wg2@nttdata-strategy.com